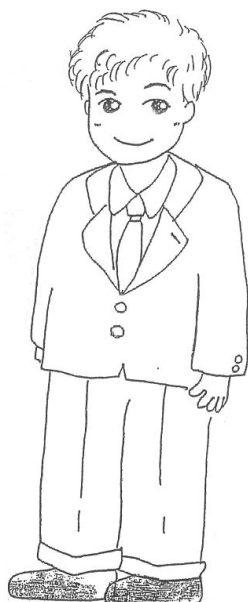


園長メッセージ



前回のメッセージで、子どもたちの「あそぶ」（あそび）を大切にして、その質を高めていきたいと書きました。今回は、「子どもとあそび」についてです。

幼児期は「あそびながら学ぶ」とか「あそんで学ぶ」と言われます。いわゆる「あそびまなび」ということです。本園では、子どもを「あそばせる」ということを考えるのではなく、「あそぶ子にする」（自らあそぶ子）にするには、どうすればいいのかを常に考えています。

園庭であそんでいる姿を見ていると、園児たちは自らのしたいあそびをしています。この「自らのしたいあそび」がとても大切なのです。何もしたくない、何をしたいのかわからないというのは、4月の入園当初にはありえませんが、いつまでもそれが続いてはいけません。うまくあそぶには練習が必要です。自分のあそびがうまくいくように、そして自分が満足できるようにするには、ある程度の練習を要します。そして、好きなあそびは飽きるまで繰り返します。

自分のしたいあそびをするには・・・

- ① あそびの目標（どんなあそびを、どうしたいのか？）を決める。
- ② そのあそびに必要な仲間を集める。
- ③ そのあそびに必要な物を集める。

この3つが出来なければなりません。ところでこれは、大人の仕事に似ていませんか？ 仕事（プロジェクト）などの目標に向かって、人を集めたり、お金や物など必要なものを集めたり、実行していくという作業はほとんど同じです。「よくあそべる子は、いい仕事をする人になれる。」その素地をこの幼児期に培っているのかもしれませんが。